

2024

No. 12

SHODAI

# 学園広報誌 商大

SHODAI



学校法人高崎商科大学  
since 1906

高崎商科大学大学院

高崎商科大学

高崎商科大学短期大学部

高崎商科大学附属高等学校

高崎商科大学佐藤幼稚園

〒370-1214

群馬県高崎市根小屋町741

TEL 027-347-3399

## Contents

- 法人トピックス 海外研修に参加して (P1-2)
- 大学トピックス (P3)  
社会連携センター(xTUC)始動！
- 短期大学部トピックス (P4)  
2023年度卒業生：須藤美空さん、櫻井未舞さん
- 後援会による海外教育助成金制度のご紹介 (P5)
- 附属高等学校トピックス (P6)  
部室棟およびトレーニング室が完成しました！
- 佐藤幼稚園トピックス (P7)  
SL乗車体験・佐藤幼稚園祭り・運動会
- 学園情報 (P8-9)
- 2024年度役員名簿 (P10)
- Campus Information (P11)

## 法人トピックス

### 海外研修に参加して フィリピン・マニラ

学校法人高崎商科大学では求める教職員像として、「何事に対しても主体的に行動し、当事者意識をもって考えられる」「協働力をもってチームで活動ができる」「多様性を理解し、他者を尊重できる」「新しいことや変革に対してチャレンジできる」を掲げています。これらの能力を開発し、より良い教育環境を整えていくことを目的として、学園主導の研修を企画しています。今回企画した海外研修は上記能力の内、とりわけ「多様性を理解し、他者を尊重できる」「新しいことや変革に対してチャレンジできる」の2点をテーマとしています。

#### ■ 高崎商科大学 教授 後藤 小百合

2024年11月25日から12月1日まで、学校法人高崎商科大学主催フィリピン海外研修に参加させていただきました。マニラの大学や高校、慈善教会を訪問し、現地の人々と交流しながら、文化を体験する貴重な機会を得ました。

多くの日本人が持つフィリピンの「治安が悪い」、「貧富の差が大きい」などのネガティブなイメージに反し、実際はとてもエネルギーで活気に満ち、フィリピン料理が美味しくて、明るい性格の人たちの国でした。特に首都マニラは、高層ビルが建ち並び、人口の増加が著しい。まさに日本の高度経済成長期を彷彿とさせる魅力的な街でした。



Eulogio “Amang” Rodriguez Institute of Science and Technologyにて

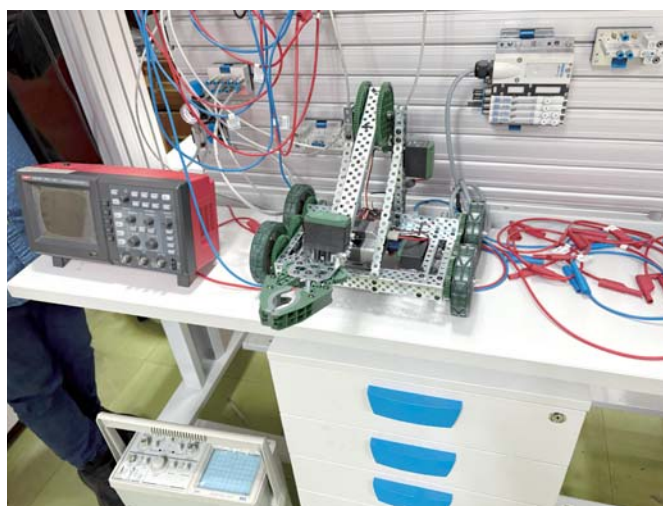


一方、この研修を通じて改めて感じた日本の姿は、優れた技術や便利な生活が実現されているにも関わらず、将来に不安を感じる若者が多く、安心して結婚や子育てをすることが難しい「生きづらい国」なのではないかということです。何をどう変えたら良いか分からない、この閉塞感を変えないと、凄い勢いで発展するフィリピンに近い将来追い越されるのではないかと痛烈な危機感を感じて帰国したことが、私にとって今回の研修の最大の成果です。

さらに、私たちが当然と思っている現在の便利な生活が、果たして本物の豊かさや幸せの実感に結びついているのかという疑問も持ちました。とても難しい問いではありますが、まずは客観的に日本を理解するために、海外に行き、外から日本を見てほしいと思いました。特に若者にはできるだけ若いうちに海外経験を積み、他国の状況を知ってほしい。その上で、日本は何に優れ、何が不足しているのかを様々な立場から考え、知恵を出し合ってほしい。それが将来の日本を発展させる原動力となるのではないかと考えます。

### ■ 高崎商科大学附属高等学校 商業科主任教諭 桑原良典

電子工学の授業で活用していたロボット



私は、今回の研修に参加させていただくにあたり、①フィリピンの子どもたちの実態を知ること。②高校教育の内容と実態を理解すること。③研修の内容をどのように今後の教育に活かすという3つの目標を掲げました。現地の実態は、想像以上に貧困に苦しむ子どもたちが見受けられたことが、経験的にわかりました。例えば、生活のためにドアマンやチップを求めている状況がそれを裏付けていました。他方、今回お訪ねした学校、とりわけ高校では実務教育を中心としたカリキュラム構成でした。具体的には、電気工事関連の知識や調理、製菓、商業、コンピューターサイエンスといった分野の学習を行っており、社会に出てすぐに役立つ

立つ、手段としての学びを中心としていました。このことから、私なりの言葉で言えば、生活のための学び、所謂「生活知」の習得が中心であったと感得しました。ここには、教養という側面が欠けているということに気づかされました。

しかし、教育方法はユニークでありました。暗記型、注入型の学習方法ではなく、コミュニケーション型の授業が展開されていました。これは、紙がない国の学習文化ではありますが、所謂対話中心の授業という面では、学ぶことが多くありました。対話型の授業を高校でも導入する必要があることに気づかされました。その理論と対応の在り方について今後は模索したいと考えています。

目を転じてみれば、フィリピンの国立博物館では、太平洋戦争時における日本人の行いに心が乱れました。平和と戦争との関係を、絵や資料を活用し生徒に伝えることの大切さを改めて痛感しました。自国を大切にしつつ、他国を慈しむことのできる教育の実現を目指していきたいと考えています。



自動車のモデル

## 大学トピックス

## 社会連携センター（x TUC）始動！

高崎商科大学 社会連携センター長

教授 前田 拓生 Takuo Maeda

## 【社会連携センターとは】

2024年4月より「地域連携センター」は、これまでの地域連携体制に加えて、企業連携等を担う部署を統合し、名称も「社会連携センター」として新しくスタートしました。この新しくなった本センターは、地域・企業・他大学・高校等との連携をさらに深め、本学の教育・研究・社会貢献を推進するための拠点として、ハブ機能を強化しています。ただ「社会連携センター」という名称だと、少し堅い印象を与えることから、各団体との連携をクロスと表し「x TUC：クロス ティー・ユー・シー」という愛称も設定しました。

## 【本センターの使命「商学で地域や企業を豊かにする」】

社会連携センターの前身である「地域連携センター」は、2013年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業：Center of Community事業（COC事業）」に採択されたことを機に、COC事業の推進拠点として2014年度に「コミュニティー・パートナーシップ・センター」として設置されました（その後、2018年度に「地域連携センター」に改称）。現在、COC事業そのものは終了していますが、地域や企業、大学等を繋ぐハブの必要性は、COC事業を推進していた当時よりもさらに高まっています。本学は、上信電鉄



鳥川カフェ+クリスマスイベント



企業連携

上信電鉄上信線沿線において唯一の大学として、地域を志向した教育・研究・社会貢献を大学全体で推進し、「商学で地域を豊かにする」という使命を掲げています。この使命を果たすため、地域の



榛名ひまわりP.J

自治体や企業と連携して「観光まちづくり」「地域活性化」とそれを支える「人材づくり」というアプローチを用いて、当該沿線地域における課題解決を目的として連携活動を推進していきます。

## 【新型コロナウイルスを乗り越えて】

とはいえ、2019年12月に始まった新型コロナウイルス感染症の影響により、人々との接触が制限され、多くの重要な連携活動が一時停止を余儀なくされました。そのような困難な状況下においても、本センターでは教職員が一丸となり、様々な工夫を重ねながら、地域や企業等との絆が切れないように保ちつつ、地域等の課題解決に向けた活動を前向きに取り組んできました。このような努力が各方面に評価され、現在では「ニューノーマル（新しい日常）」を取り入れた連携活動も増え、感染症流行前を上回る活発な連携活動が実現しています。また、本学の「地（知）」を活かした取り組みも一層多様化し、さらなる発展を遂げています。

## 【社会連携センターの始動、そして】

このような中、2024年度からは、従来の地域連携活動に加え、企業連携や高大連携を主軸とした産学連携グループを設置し、社会連携センターへと変更しました。この新たな体制のもと、「地域」に限らず、「社会全体」との連携を標榜し、ハブとして本学教職員・学生を社会に繋げ、社会に存在する課題の解決に資する教育・研究・社会貢献に取り組んでいくつもりです。

引き続き、本センターが地域コミュニティや社会の中心的な役割を担えるよう、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



## 短期大学部トピックス

高崎商科大学短期大学部 現代ビジネス学科長

中村 雅典 Masanori Nakamura

人生100年時代。短大の2年間で数字で見れば100分の2であるが、人生にとって大きな100分の2になる可能性を秘めている。短いからこそ濃度勝負の2年間。学生とのつながりを大切に、良い意味で『お節介』屋さんとして学生と接しているためか、卒業式では「この前入学してきたばかりなのに、もう卒業！？もう1年いる」などとよく冗談を言ってしまう。嬉しさと寂しさが入り混じるなか、学生と過ごす貴重な2年間は、学生の成長ぶりをを感じる場面が多く、その成長を見られることが教員としての喜びでもあり原動力でもある。今回は『卒業後の姿』にターゲットを絞り附属高校出身の2名にご協力いただいた。入学当初から思い描いていた将来に近づくための進路選択をし、それぞれの道で活躍している『今の姿』をお伝えしたい。

## 2023年度卒業生：須藤 美空 さん



在学中はIPPOプロジェクトにて1か月間オーストラリアで過ごし、帰国後は3.5本の矢プロジェクトに参加、2年生では学内チューターとしても活躍し「短大



の学び」を積極的に活用した須藤さん。現在、京都のホテル（宿泊者の9割が訪日客）で、同僚の半分が外国人スタッフというマルチリンガルな環境で働いている。勤務先は単なる宿泊場所の提供ではなく“Let us be a piece or journey.”をコンセプトとした「ゲストの思い出の大切な“ピース”を作る」ことを目指しているため、お客

様の期待を良い意味で裏切る（超えていく）ことが求められるデマンティングな職場。しかし、須藤さんは「毎日、英語を使って仕事をこなしていることにやりがいを感じている」と話し、特に「ゲストの想像を超えた体験を提供することが出来た時に強く達成感を感じている」とスウェーデン人女性3名との『湯葉懐石』エピソードを嬉しそうに話してくれた。「京都に居住して数か月、やっと土地勘がでてきたところでの豆腐・湯葉の懐石料理のリクエストは、自分にはそのような懐石料理のお店の経験がなかったため、さすがにハードルが高かったです。でもチェックアウトの際には、素晴らしい経験できたとお礼のお言葉をいただき、一緒に写真を撮って欲しいと言われ本当に嬉しかった」と語ってくれた。お客様に何かを薦めるためには、今まで以上に飲食店の経験や観光スポットの体験が必要であると感じており、会社の福利厚生1つ『BE ACTIVE制度』を使って、京都の隅々まで自身で体験し、日本の良さをもっと伝えられる人材になりたいと抱負を語った。入学時から語っていた須藤さんの『日本をもっと知って好きになって欲しい』というキモチは、今も全く変わっておらず、自分の理想を追い続けていると強く感じた。

## 2023年度卒業生：櫻井 未舞 さん

コロナ禍で海外留学が叶わなかった高校時代。本学入学直後に「海外留学プレミナール」を履修。憧れの対象であった留学を「なぜ留学なのか、そして留学で何をしたいのか」など自分事化に努めた。短大での学修、ゼミ仲間の国内外での活躍からも刺激を受け、漠然としていたアメリカ留学を「まずはアメリカの大学の日本校で自分を試し、その後、拠点を日本からアメリカに移す」と具体化した。在学中の残りの時間は編入学に必要なIELTS6.0の取得を目指し猛勉強を重ね、本学から約40単位ほど認められ Temple Universityの2年次生として見事編入学を果たした。現在、三軒茶屋にてアメリカの大学生活を送っている。テンプル大生の櫻井さんに実際の授業について尋ねてみたところ、「覚悟はしていましたが課題や授業準備が鬼で、実は何度も心が折れそうになりましたが、新しい仲間の支えもあり、また、図書館に住み込み状態で頑張った甲斐もあって、最初の科目 American StudiesではA評価の4.0を取れました」と嬉しそうに語った。忙しい大学生活の中でも、すでにアルバイトを始めている。職場では『海外のお客様＝櫻井対応』という図式になっているようで「頼りにされていて自分の英語力で貢献できていることがものすごく嬉しい」と笑顔で語った。アメリカの大学生らしくあたりまえのように英語でお客様対応していることも成長を強く感じるのであるが、それだけにとどまらない。「フルタイムで履修することで2年弱で卒業となるので、アメリカだけではなくローマキャンパスに籍を移しヨーロッパの文化を肌で感じてみたい」と次のステップについても明かしてくれた。世界に拠点を構えるテンプル大学の利点をフル活用し、自らの将来を切り開いていく力強さも感じた。



今回、暮れの忙しい時期でもあるにもかかわらず、卒業生に時間を割いていただいた。つい先日まで教室で見かけ話しかけていた短大時代の姿とは違い、すでに立派に独り立ちし、自分の人生を自分の足で着実に歩いていることを実感した。本学での100分の2がどこまで影響があったかななどの数値では表すことはできないが、成長への1歩に貢献できていれば幸いである。

## 高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部後援会による海外教育助成金制度のご紹介

本制度は、高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部の海外渡航プログラムに参加を希望する学生のみなさんを経済的に支援し、多様な学びの場を提供することを目的として、本学後援会から加入者に限定し援助をおこなうものです。所定の申請条件を満たし審査を通過した学生には、渡航費（サーチャージ料を含む航空チケット料）を、1名につき上限10万円（短期プログラムの場合は上限5万円）を助成します。今回は、この制度を利用して海外プログラムに参加した2名の学生の体験談をご紹介します。

### ベトナムインターンシップに参加して

高崎商科大学 商学部経営学科 2年 上原 大昇

私は2024年の夏、「ベトナムでのインターンシップ」という約1ヶ月間のプロジェクトに参加しました。

実習先は、ベトナムの首都ハノイにあるフォンドン大学で日本語学科の授業のサポートをするという内容でした。日本語学科の学生たちは日本への留学や就職を目指しており、彼らの真剣な姿勢に触れ、私自身も大きな刺激を受けました。授業では発音や会話の練習のサポート、作文の添削等を行うことが主な役割で、初めは緊張していましたが、学生と会話を重ねていく度に自分の役割を実感し、責任感が湧いていきました。



また、学校外でも学生たちと多く行動することができ、ベトナムの温かい心遣いや豊かな文化に触れることができました。

今回の経験を通じ自分の視野の狭さ、未熟さを痛感すると同時に、教育面における生徒一人ひとりの理解度に合わせたサポートの重要性を学び、今後も教育に関心を持ち続けたいという新たな目標も見つかりました。

また日本とは違う文化を経験したことで、柔軟な考え方や多様な価値観を受け入れる姿勢の大切さを実感しました。この経験は、私にとって大きな成長のきっかけとなり、これからの人生において貴重な財産となると確信しています。

最後に、経済的な負担を軽減してくださった後援会の皆さまに、心から感謝申し上げます。今後もこの助成制度が多くの学生にとって新たな挑戦の一步となることを願っています。



### 台湾 SSP を通して

高崎商科大学短期大学部 現代ビジネス学科 2年 松林 瑞季

私は2024年9月3日から12日まで、海外プログラム IPPO プロジェクト「台湾 SSP (Short Stay Program)」に参加しました。このプログラムは私にとって多くの面で成長できた貴重な体験となりました。



参加学生で「TAIWAN」を表現（台湾台中市の高美湿地にて撮影）

私がこのプログラムに参加したのは、2年間の短い学生生活のうちに、異なる価値観や新しい考え方を学び、視野を広げたいと考えたからです。また、海外に行くことは高額なイメージがあり金銭的に不安がありました。しかし、本校の助成金制度があったことで台湾に行く決意ができたと思います。

今回のプログラムを通じて私が一番成長したと思うのは、コミュニケーション能力だと感じています。実際に日本語を学んでいる現地の高校生（稲江高級護理家事職業学校）や大学生（台中科技大学）と交流しました。生徒・学生たち全員が流暢な日本語を話せるわけではなかったため、ジェスチャーや少しの英語で意思疎通を行いました。言葉が通じなくてもリアクションや表情で気持ちが伝わり仲良くなることができました。コミュニケーションとは言葉での交流だけでなくことを学ぶことができ、この経験で言語・非言語のコミュニケーション能力が身についたと思います。

初めての海外で不安なことばかりでしたが、プログラムの事前学習で台湾という国についての知識や渡航に必要な情報を得ることができ、安心して台湾に行くことができました。そして、通常の観光旅行ではできない、現地の生徒・学生との交流や政府関係機関の訪問を通して、大変充実した10日間を過ごすことができました。



## 部室棟およびトレーニング室が完成しました！

高崎商科大学附属高等学校

事務長 蜂須 和伸 Kazunobu Hachisu



本校の新たな学びと成長の場となる「部室棟およびトレーニング室」が、このたび並榎キャンパス武道館の隣に完成しました。この新施設は、生徒たちが快適に活動し、充実した学校生活を送ることができる環境を目指して設計されました。地上2階建ての構造で、1階には部室、2階にはトレーニング室を配置しています。



1階には9つの部室があり、テニス部・アーチェリー部・バスケットボール部・バトントワリング部・女子サッカー部・軽音楽部が使用します。それぞれの部室は明るくカラフルなデザインで仕上げられており、生徒たちが放課後や部活動中にリラックスしながら活動できるよう工夫



カラフルなデザインの部室

されています。また、軽音楽部の部室は防音効果の高い特別な設計が施されており、音楽に集中して取り組むことができる快適な環境が整っています。カラフルで広々とした空間は、生徒たちの創造力を刺激し、楽しく活動できる場所となっています。



本格的なトレーニングマシンを備えたトレーニング室

2階は、黒を基調とした落ち着いた空間に本格的なトレーニングマシンを備えたトレーニング室を設置しました。フリーウエイトエリアには充実したウエイトトレーニング機器を配置し、全身を鍛えるマシンエリアにはラットプルダウン、チェストプレス、レッグプレス、アップライトバイク、ストレッチ用スペースなどが完備されています。この施設は、競技力向上や健康維持を目指す生徒たちにとって理想的な環境です。さらに、トレーニング室の東面と北面には大きな窓が設置され、榛名山や赤城山を眺めながらトレーニングができる開放感あふれる設計となっています。このような環境は、身体だけでなく心のリフレッシュにもつながります。

また、本施設の建設に際して、体育の授業や部活動で使用する道具を効率的に保管・管理できる倉庫を増設しました。これにより、活動の準備や片付けがスムーズになり、生徒たちの活動時間をより有効に活用できるようになりました。

新しい部室棟とトレーニング室は、生徒たちの部活動を支援するだけでなく、学校全体の活気をさらに高める場として期待されています。これからも本校は、生徒一人ひとりが自分の可能性を広げ、充実した学校生活を送るための環境づくりを進めてまいります。ぜひ新しい施設をご覧ください、そこでの新たな挑戦を共に楽しみましょう！

## 佐藤幼稚園トピックス

### SL乗車体験

2024年11月20日、JR高崎支社よりSLの試運転列車の乗車という貴重な機会をいただき年長児が参加しました。園から北高崎駅までは徒歩で、北高崎駅→高崎駅間は在来線で、高崎駅→渋川駅間をSLに乗車するという行程です。汽笛を鳴らし白い煙とともに磨きあげた漆黒のSLがゆっくりとホームに入ってくると子どもたちの興奮は最高潮となり、拍手する子、歓声を上げる子、車体の熱が伝わる程近くで見る事が出来、電車好きの子は薄っすらと涙まで浮かべていました。乗車後は車窓を眺めながら駅員さんによるマニアックなクイズを楽しみ、ご褒美のレアステッカーまでいただき大満足な一日でした。



### 佐藤幼稚園祭り

在園児そして卒園児が毎年楽しみにしている『佐藤幼稚園祭り』を小雨の中開催しました。

園庭で行う予定であった工作や模擬店は教室で、フリスビーゲームは遊戲室で行いました。来場した子どもたちも保護者の方々も終始笑顔で、喫茶コーナーでコーヒーを飲み、パウンドケーキやフランクフルトを食べながら歓談を楽しんでいたようです。招待した昨年度の卒園児（現1年生）は「先生、こんにちは」と皆元気な姿を見せてくれました。成長した卒園児に会えるのも、私たち職員の大きな喜びでもあります。父母の会の委員の方々、お手伝いをいただいた保護者の皆様のご協力があり賑やかな余韻を残しつつ3時間で幕を閉じました。今回の『幼稚園祭り』も子どもたちと保護者の方々の心の中に親子で参加した温

高崎商科大学佐藤幼稚園 園長

中村 登美子 Tomiko Nakamura



かい思い出として残っていてくれることと思います。又、『幼稚園祭り』を来年、再来年と続けて行く為に、その時代にあったものに变化させていこうと考えています。

### 運動会

子どもたちも応援の皆様も一つになり、全員で走り抜いた記憶に残る運動会。園庭には色とりどりの雨傘の花が満開でした。雨脚が強くなる中、父母の会の皆様と開催中何度も協議しましたがそのたび満場一致で「このまま続けましょう」とすべての種目をやり終えました。子どもたちのダンスや徒競走、リレーはもちろんのこと、新種目『親子リズム』のふれあいレクリエーションでは特に保護者の方々の笑顔が印象的でした。又、毎年恒例のクラス対抗綱引きでは、お父様方の頬を伝うのは汗なのか雨なのか・・・大迫力の力の戦いにこの日一番の声援が飛びました。委員の皆様をはじめ、雨の中最後の最後までテントの片付け等お手伝い頂いたお父様方、ご協力ありがとうございました。





## 学園情報

学園全体

### 「内部統制システム 整備の基本方針」 を策定しました

今般、私立学校法の改正に伴い、「内部統制システム整備の基本方針」を理事会にて定めました。「内部統制システム」とは、学校法人がその活動を健全かつ効率的に運営するための仕組みのことを言います。つまり、これから本法人が健全かつ効率的な運営を行っていくためのルールや決まりごとを整備していくための方針を定めたということです。

この方針を定めることにより、①事業活動の目的を達成するために業務の有効性及び効率性を高める、②組織内及び外部への報告の信頼性を高める、③事業活動に関わる法令やその他規範の遵守を促進する、④正当な手続きや承認の下に資産の保全を図る、の4点が期待されます。

本学園は従来に増して健全性、そして透明性の高い組織運営を目指し、ステークホルダーのみなさまに開かれた学校運営を行って参ります。どうぞ引き続きご理解、ご協力、そして変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

法人本部長 森本 圭祐

### 学園表彰「永年勤続表彰」

学園全体

「学校法人高崎商科大学職員表彰規程」に基づき、本学園の事務職員3名が表彰され、2024年11月20日に大学にて表彰式を行いました。この規程は、学園記念日または退職日において本学園での勤続期間が25年に達した方を表彰し、心身のリフレッシュのため連続する3日間の休暇（リフレッシュ休暇）を取得していただくというものです。表彰された下記の方々には、森本理事長より表彰状と金一封、祝辞が贈られました。

大  
学



鈴木 洋文



遠藤 康生



山田 美春



大 学

経理研究所

### 公認会計士試験合格者10年連続輩出



#### 【公認会計士試験について】

2024年度公認会計士試験の合格発表が2024年11月15日に行われ、商学部会計学科の4年生4名、2年生1名が見事合格しました。本学からは在学学生8名が受験し5名が合格という結果であったため、合格率は62.5%となり、全国平均を大幅に上回りました（※2024年度公認会計士試験の合格者は全体で1,603名であり、合格率は7.4%）。今回の合格者輩出で、本学から10年連続で現役大学生による合格者を輩出したことになり、10年間累計の現役合格者は37名に上ります。また、論文式試験の受験資格を得るための1次試験の位置づけにある短答式試験においては、累計56名が合格しています。

## 高校 アーチェリー部 卒業生の活躍

本校のアーチェリー部も創部から長い月日がたち、たくさんの卒業生を輩出しています。その中で、男子で活躍している2名を紹介したいと思います。

一人目は森田伊心さん（2015年度卒）です。森田さんは現役時代、部長として後輩たちを熱心に指導しました。個性豊かなメンバーをまとめる姿は部員たちの模範となりました。また、3年時には奈良県で行われた近畿インターハイにも団体メンバーとして出場しています。

二人目は大塚謙史さん（2009年度卒）です。大塚さんは現役時代にも活躍し、2年時に出場したインターハイで、強豪を次々と撃破し男子団体で優勝、また、3月に行われた全国選抜大会でも個人2位という結果を残しています。

二名とも大学進学後、さらに社会人となってもアーチェリーを続けており、特に2022年に行われた国体では予選8位から勝ち上がり2位を、また昨年度行われた国民スポーツ大会でも4位という素晴らしい結果を残しています。今後も高崎商科大学附属高等学校の卒業生として活躍を見守り、応援していきたいと思います。

アーチェリー部 顧問 佐藤 正樹

## バドミントン部 実績報告

## 高校

私たちは、高校バドミントン界を牽引すること、応援されるチームであることを理想とし全国大会入賞を目標に努力を続けています。

今年度に入り、インターハイ3年連続出場を始め、各上位大会にすべて出場することができました。今秋行われた群馬県新人大会では、男子では学校対抗戦とシングルス個人戦で準優勝・ダブルス個人戦優勝、女子では学校対抗戦・シングルス個人戦・ダブルス個人戦の全種目優勝を果たしました。2024年12月に群馬県で行われた関東選抜では、男子ダブルスベスト8、女子ダブルス第3位、女子シングルスベスト8となり、3月に石川県金沢市で行われる全国選抜に女子学校対抗戦と女子ダブルス個人戦での出場が決まっています。

応援していただいている多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに努力をしていきたいと思います。

バドミントン部 顧問 加賀美隼人  
井上 博貴



## 高校

## 井出聖和教諭が表彰されました

2024年度 群馬県私立小・中・高等学校協会 優秀教員の表彰式が1月17日に常磐高校にて行われ、高崎商科大学附属高校より井出聖和教諭が選出・表彰されました。



井出 聖和 教諭





## 2024年度 役員名簿

## 2024年度 学校法人 高崎商科大学 理事・評議員・監事

|         |       |        |         |     |       |     |       |
|---------|-------|--------|---------|-----|-------|-----|-------|
| 理事長・評議員 | 森本 淳  | 理事・評議員 | 松澤 斉    | 評議員 | 新井 清義 | 評議員 | 瀧上勇次郎 |
| 理事・評議員  | 森本 圭祐 |        | 山端 耕之   |     | 蟻川 順子 |     | 竹上 健  |
|         | 築 雅之  | 監      | 事 加藤 勝二 |     | 清水 直樹 |     | 中村 雅典 |
|         | 安齊 義宏 |        | 高橋 秀実   |     | 丸山 正悟 |     | 加島 勝一 |
|         | 中村登美子 |        |         |     |       |     |       |

## 2024年度 高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部 後援会 役員

|       |              |     |              |     |             |
|-------|--------------|-----|--------------|-----|-------------|
| 会 長   | 松澤 斉         | 監 事 | 上野 光子（保護者会員） | 参 与 | 遠藤 康生（教務課長） |
| 副 会 長 | 若林 啓友（保護者会員） |     | 小柏千亜紀（保護者会員） | 書 記 | 内山 淳（事務局）   |
|       | 中嶋 勝利（保護者会員） | 参 与 | 築 雅之（学長）     |     | 有坂 祐輔（事務局）  |
| 理 事   | 栗原 信幸        |     | 森本 圭祐（法人本部長） |     | 田村 真吾（事務局）  |
|       | 馬場 弘隆        |     | 加島 勝一（事務局長）  |     | 岡野 美幸（事務局）  |
|       | 宮嶋 正         |     | 高野 卓子（総務課長）  |     | 板垣 哲平（事務局）  |

## 2024年度 高崎商科大学附属高等学校 父母の会（部活動後援会）本部役員

|       |                        |     |              |     |              |
|-------|------------------------|-----|--------------|-----|--------------|
| 会 長   | 永田 衛（F3-8）             | 理 事 | 小林 光義（F3-7）  | 理 事 | 篠原 恵（F2-11）  |
| 副 会 長 | 間正 良昭（F3-3）            |     | 六本木佳子（F3-8）  |     | 萬代 美穂（S2-2）  |
|       | 庄司 直樹（F2-9）<br>（F2-10） |     | 植原 恵子（F3-10） | 監 事 | 山田 絢子（F3-6）  |
|       | 摩庭 優（S1-2）             |     | 高林 玲子（F3-12） |     | 織茂 恵子（F3-9）  |
| 書 記   | 中林 桂（F3-4）             |     | 大久保英恵（S3-1）  |     | 稲葉ゆきこ（F2-10） |
|       | 清水 龍宴（F2-5）            |     | 赤石 花子（S3-2）  |     | 青木 朋子（F2-11） |
|       | 中沢 俊輝（事務局）             |     | 木村佳代子（F2-1）  |     | 高見 純子（S2-1）  |
| 会 計   | 根岸 由美（F3-11）           |     | 中嶋 美緒（F2-3）  |     | 山下 由佳（F1-1）  |
|       | 鶴見愛理砂（F2-2）            |     | 小竹美登里（F2-4）  |     | 小和瀬 健（F1-4）  |
|       | 下田 寛太（事務局）             |     | 大熊 真紀（F2-6）  |     | 久保 求（F1-6）   |
| 理 事   | 塚越かおる（F3-1）            |     | 吉岡 智史（F2-7）  |     | 関口美津子（F1-9）  |
|       | 植原 紀子（F3-2）            |     | 内山 敬（F2-8）   |     | 土屋 恭子（S1-1）  |
|       | 須藤 亜矢（F3-5）            |     | 甘田 啓子（F2-9）  |     | 本多美保子（S1-1）  |

## 2024年度 高崎商科大学佐藤幼稚園 父母の会委員

|        |             |         |               |         |              |
|--------|-------------|---------|---------------|---------|--------------|
| 会 長    | 松尾 典子（ばら組）  | 会 計     | 戸塚 潤子（たんぽぽ組）  | 教養委員長   | 山下 幹子（ゆり組）   |
| 副 会 長  | 市川友里恵（ゆり組）  |         | 土屋 鮎子（ちゅうりつ組） | 教 養 委 員 | 堀 美幸（すみれ組）   |
| 副会長・書記 | 篠原 郁哉（すみれ組） | 広報委員長   | 牧 亜由美（ちゅうりつ組） | 会 計 監 査 | 庭野香那子（ひまわり組） |
| 書 記    | 高山 宏枝（ばら組）  | 広 報 委 員 | 石井 まゆ（たんぽぽ組）  |         | 野口 優美（ひまわり組） |

## 学園全体

## 同窓会のご案内

### ■高崎商科大学附属高等学校

本校では情報メディア部がeスポーツ大会に参加し、優勝経験もあるなど積極的に活動しています。そこで今回同窓会では2024年12月21日にeスポーツの体験会を企画し、同窓生親子と本校の情報メディア部の生徒が参加しました。当日は本校在籍時、実際にeスポーツ大会で優勝した卒業生の櫻井さんが講師を務め、ポップな絵柄で親しみやすく、それでいて奥深いゲーム性のぷよぷよeスポーツを体験してもらいました。



【高崎商科大学附属高等学校  
同窓会事務局】  
〒370-0803  
群馬県高崎市大橋町237番地1  
TEL 027-322-2827



### ■高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部

2024年10月19日・20日に学園祭「彩霞祭」が開催され、19日には同窓会主催の「ホームカミングデー」を4号館SKYにて開催し、懐かしい同窓生との歓談やビンゴ大会を楽しみました。同日にはFM群馬公開生放送にて同窓会活動の紹介をさせていただいたほか、同窓会総会も開催しました。彩霞祭中は例年、常設ブース「つながりcafe」もキャリアサポート課のスタッフと一緒に運営しています。世代を問わず卒業生たちが集まれる場所となっておりますので、ご来場の機会がありましたら足を運んでいただくと嬉しいです。

同窓会では、仕事や子育てで忙しい方や、遠方にお住まいでなかなかホームカミングデーや高崎に来られない方にも大学時代の懐かしい思い出を感じていただけるよう、HP「巡彩-JUNSAI-」など公式SNSを更新しています。また新しい試みとして、大学と共同で「OB・OGキャリアサポーター登録」もおこなっています。同窓会や大学からイベントのご案内や限定のお知らせなどお送りしますので、同窓会の活性化や後輩たちのサポートに是非ご協力ください。登録による義務などは一切ありませんので、お気軽にご登録いただけます。皆様のご協力をお待ちしております。



【高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部  
同窓会事務局】  
〒370-1214 群馬県高崎市根小屋町741  
TEL 027-347-3399

同窓会公式  
アカウント



ホームページ  
「巡彩」



Instagram



Facebook

ご協力  
お待ちしております

OB・OG  
サポーター  
登録



起業・独立  
された卒業生  
アンケート



学園広報誌「商大」No.12 2025年2月27日発行  
学校法人高崎商科大学